

「被造物を大切にするためのミサ」の手引き ～2026 年版～



2025 年 6 月 8 日付で、教皇庁典礼秘跡省から「被造物を大切にするためのミサ」という新しい式文が発表されました。教皇レオ 14 世は、同年 7 月 9 日、ローマ近郊カステル・ガンドルフォの教皇宮殿の庭園内にある「ボルゴ・ラウダート・シ（ラウダート・シ村）」で、初めてこの式文を用いてミサをささげました。この場所は、教皇フランシスコの時代に始まった、環境保全と持続可能な生き方の実践と教育のための施設です。レオ 14 世はミサの説教の中でこう述べています。「被造物を守り、平和と和解をもたらすというわたしたちの使命は、イエスご自身の使命であり、主がわたしたちに託された使命です。わたしたちは大地の叫びに耳を傾けます。貧しい人々の叫びに耳を傾けます。な

ぜなら、この叫び声は神の心に届いているからです。わたしたちの憤りは、神の憤りです。わたしたちの働きは、神の働きなのです」。

司教団の典礼委員会とラウダート・シ部門では、この新しい式文を用いてミサをささげる皆さまの助けとなるよう、いくつかのヒントを用意しました。それぞれの共同体でご活用くだされば幸いです。

2026 年 7 月

日本カトリック司教協議会

典礼委員会 委員長 白浜 満

ラウダート・シ部門 担当司教 成井大介

はじめに

「被造物を大切にするためのミサ」とは？

このミサの式文と聖書朗読箇所は、『ローマ・ミサ典礼書』の「種々の機会のミサまたは種々の目的のためのミサ」に加えるミサとして、2025 年 7 月 3 日に教皇庁典礼秘跡省から発表されました（式文の邦訳は本資料 11 頁参照）。

このミサは、教皇フランシスコの回勅『ラウダート・シ——ともに暮らす家を大切に』の中心的なメッセージに基づいて、それを祈りとして表現したものです。環境問題を、自然環境、人間社会、経済、文化、倫理、霊性との相互関係の中で総合的に捉える、『ラウダート・シ』の中心的概念である「インテグラル・エコロジー」の豊かな神学的・霊的側面を理解する助けとなることを目指しています。

「被造物を大切にするためのミサ」をいつ行うことができますか？

「被造物を大切にする世界祈願日」（9 月の第 1 日曜日）と「すべてのいのちを守るための月間」（9 月 1 日～10 月 4 日）が勧められます。前者は年間主日と重なるので、主日の主要なミサとは別に行いますが、それが難しい場合も、主日のミサの説教や共同祈願、聖歌などで神の創造のわざや被造物を大切にすることなどについて触れることができます。

また、このミサは、「司牧上有益であれば、教区司教の指示または許可によって、祭日および待降節と四旬節と復活節の各主日、主の復活の八日間、死者の日、灰の水曜日、聖週間を除くすべての日に」（『ローマ・ミサ典礼書の総則』374）ささげることができます。一年のさまざまな季節にこのミサをささげることにより、移り変わる季節や自然界のリズムを意識し、神の創造のわざについて思い起こす機会を提供することができるでしょう。

「被造物を大切にするためのミサ」をどこで行うことができますか？

聖堂で行う場合は、このミサのために聖堂の空間や備品、ふさわしいシンボルなどをどのように生かすことができるかを念頭において準備します。

天候や場所の条件が許せば、「創造の大聖堂（Cathedral of Creation）」、「自然の大聖堂（Cathedral of nature）」などと呼ばれる屋外でこのミサをささげることができます。森や公園、庭園、湖畔など、神の創造のわざの美しさを直接感じることでできる場所がふさわしいでしょう。自然そのものを「大聖堂」として受け止め、その中で創造主である神を賛美し、被造物とのつながりを深く味わうことが大切です。アッシジの聖フランシスコは、「自然を、神がそこでわたしたちに語りかけ、ご自身の無限の美や善を垣間見させてくれる、壮麗な一冊の本」（教皇フランシスコ回勅『ラウダート・シ』12）とみなしていました。

野外ミサのために祭壇が設置されていない場所では、適当な大きさのテーブルなどを祭壇として準備します。その場合、祭壇布とコルポラーレ、十字架、ろうそくを必ず用いてください（『ローマ・ミサ典礼書の総則』297、306-308 参照）。また、朗読台も準備します。

ミサのための工夫

典礼色

「被造物を大切に作る世界祈願日」（9月の第1日曜日）と「すべてのいのちを守るための月間」（9月1日～10月4日）にミサを行う場合、典礼色は緑を用います。そのため、たとえば緑色の布を朗読台や会衆席から見える祭壇周辺の壁などに掛けたり、祭壇の周りを緑色の植物でふさわしく飾ったりすることもできるでしょう。これ以外の時期にミサを行う場合は、その日に指定された典礼色を用います。

準備

ミサを屋外でささげる場合、聖堂内と同じように、会衆が祭壇と朗読台に意識を集中できるよう、祭壇と朗読台を設置する位置、会衆の座る場所、マイクロフォンなどの必要な機材に配慮することが大切です。また、照明、ろうそく、香、花なども適切に使用して、被造物が神からの賜物であること、被造物を守るわたしたちの責任や被造物との親密なかかわり、そして創造主である神への賛美と感謝に一同が心を向けられるよう工夫します。その際、使い捨ての物や道具を多用したり過剰なエネルギーを使用したりすることは控えるよう心がけます。

日本のカトリック教会では、9月1日から10月4日を「すべてのいのちを守るための月間」と定めていますが、これと同じ期間に、わたしたちと創造主である神との関係、そして全被造物との関係について、教派を超えて思い起こすための「被造物の季節 (Season of Creation)」というエキュメニカルな行事が全世界で行われています。毎年テーマが設定されているので、テーマに則した装飾なども可能でしょう。2026年のテーマは「いのちの水 (Living Water)」（エゼキエル 47・1-12 参照）です。



聖歌

造り主である神をたたえる聖歌、たとえばアッシジの聖フランシスコによる「被造物の賛歌 (Canticle of Creatures)」（太陽の賛歌）がふさわしいでしょう。この賛歌はカトリック教会の公式の聖歌集には載っていませんが、『讚美歌 21』223「造られたものは」、『日本聖公会 聖歌集』321「ものみなこぞりて」などが「被造物の賛歌」に基づく聖歌です。これらを歌う場合は、司式者の了解のもとで歌うようにしてください。

また、教皇フランシスコ訪日公式聖歌「すべてのいのちを守るため」、詩編 19（『典礼聖歌』147「天は神の栄光を語り」、詩編 96（同 148、150「遠く地の果てまで」、詩編 98（同 149、151「遠く地の果てまで」、詩編 104（同 5「あなたのいきを」、同 68「神よ あなたのいぶきを」）、詩編 148（同 20「いのちある すべてのものは」、同 30「神さまの愛は」）、詩編 150（同 14、15「アレレヤ」）、『典礼聖歌』391「ごらんよ 空の鳥」などを歌うこともできます。

沈黙

通常のミサと同じように、ミサが始まる前、回心の祈り、各公式祈願の招きの後、聖書朗読と説教の後、聖体拝領の後、ミサの後などで、沈黙を守ります（「ローマ・ミサ典礼書の総則」45、56 参照）。とりわけこのミサでは、沈黙のひとつきを通して、被造物の声やうめき（ローマ 8・22 参照）に耳を傾けながらミサをささげるとよいでしょう。

ミサの前後に行う朗読や祈り

ミサの前後に、ふさわしい時間をとって、以下のような文書を朗読することができます。

- ・「被造物を大切にする世界祈願日」制定に関する教皇フランシスコの書簡（2015年8月6日）
- ・「被造物を大切にする世界祈願日」の教皇のメッセージ（[2016年～／2025年～](#)）
- ・教皇フランシスコの回勅『ラウダート・シ——ともに暮らす家を大切に』から
- ・教皇フランシスコの使徒的勸告『ラウダーテ・デウム——気候危機について』から
- ・日本カトリック司教団『[見よ、それはきわめてよかった](#)——総合的な（インテグラル）エコロジーへの招き』から

また、以下のような祈りを唱えることもできます。

- ・「わたしたちの地球のための祈り」（教皇フランシスコ回勅『ラウダート・シ』巻末に所収）
- ・「被造物とともにささげるキリスト者の祈り」（同回勅巻末に所収）
- ・「すべてのいのちを守るためのキリスト者の祈り」（『ラウダート・シ部門』ウェブサイトに掲載）

～式次第の流れに沿って～

入祭の行列

祭壇に向かう行列に、創造のわざを象徴するものを加えることができます。たとえば、火をともしたカップろうそくや透明で小さな容器に入れた水を子どもや若者が運び、祭壇の周りのふさわしい場所に置くことができます。

勧めのことば——例文

冒頭の十字架のしるしとあいさつに続けて、司式者は、たとえば以下のような勧めのことばを述べることができます。

皆さん、わたしたちは今日、神によって創造された兄弟姉妹としてともに集まりました。ミサの初めにあたり、教皇フランシスコが回勅『ラウダート・シ』の中で述べたことばを思い出しましょう。「聖体は、宇宙的な愛の行為そのものです。そうです、確かにそれは宇宙的です。なぜなら、たとえ田舎のささやかな祭壇で行われていたとしても、感謝の祭儀はつねにある意味で『世界という祭壇の上で』行われているからです。聖体は、天と地を結び、被造界全体を抱き、そして貫きます」（『ラウダート・シ』236）。

今日、ともにささげる感謝の祭儀を通して、わたしたちが創造主である神を賛美し、すべての被造物とより深く交わることができるよう祈りましょう。

回心の祈りへの招き——例文

回心の祈りへの通常の招きのことばのほかに、たとえば以下のような招きのことばを唱えることもできます。

皆さん、この世界が神の愛のしるしであることを忘れてしまったことを思い、ゆるしを願いましょう。

または

皆さん、わたしたちの周りにあるさまざまないのちを傷つけてしまったことを思い、ゆるしを願いましょう。

または

皆さん、日々の生活の中で被造物への配慮を怠り、無関心であったことを思い、ゆるしを願いましょう。

回心の祈り 三——例文

「回心の祈り 三」を用いる際の例文を三種類準備しました。司祭による回心への招きのことばに続いて、短い沈黙を取った後に唱えます。以下の〔C〕は、神によって造られた世界を傷つけてきたことに対する悔い改めに言及する内容です。

〔A〕

先唱 御父と聖霊とともに、被造界のあらゆる恵みをもたらしてくださる主よ、いつくしみを。

会衆 主よ、いつくしみをわたしたちに。

先唱 すべての被造物を祝福し、聖なるものとし、いのちをお与えになるキリスト、いつくしみを。

会衆 キリスト、いつくしみをわたしたちに。

先唱 創造されたすべてのものを、あなたのみ名において管理し、守るようゆだねてくださる主よ、いつくしみを。

会衆 主よ、いつくしみをわたしたちに。

〔B〕

先唱 全能の神による驚くべき創造のわざをほめたたえるよう招いておられる主よ、いつくしみを。

会衆 主よ、いつくしみをわたしたちに。

先唱 わたしたちに与えられたいのちに感謝をささげるよう招いておられるキリスト、いつくしみを。

会衆 キリスト、いつくしみをわたしたちに。

先唱 この世界とそこにあるすべての被造物を大切に世話するよう招いておられる主よ、いつくしみを。

会衆 主よ、いつくしみをわたしたちに。

[C]

先唱 この世界のあらゆるいのちの大切さに気づかせてくださる主よ、いつくしみを。

会衆 主よ、いつくしみをわたしたちに。

先唱 わたしたちが傷つけた兄弟姉妹である被造物との和解へと導いてくださるキリスト、いつくしみを。

会衆 キリスト、いつくしみをわたしたちに。

先唱 わたしたちの心を開き、地球と貧しい人々の叫びを聞くことができるようにしてくださる主よ、いつくしみを。

会衆 主よ、いつくしみをわたしたちに。

聖書朗読・答唱詩編・アレルヤ唱

「被造物を大切にするためのミサ」の式文とともに公表された、以下の聖書朗読や聖歌を用います。ことばの典礼では、黙想を助けるように、ふさわしい沈黙のひとつときを取ることが勧められています（「ローマ・ミサ典礼書の総則」56 参照）。

[旧約朗読] 知恵 13・1-9 宇宙の働きを見極めるほどの力があるなら、なぜそれらを支配する主を見いだせなかったのか
神を知らない人々は皆、生来むなしい。……

[新約朗読] コロサイ 1・15-20 万物は御子によって、御子のために造られた
〔皆さん、〕御子は……

[答唱詩編] 『典礼聖歌』147「天は神の栄光を語り」①②（詩編 19・2+3、4+5）
または
『典礼聖歌』68「神よ あなたのいぶきを」①②③⑤（詩編 104・1+2a、5+9、10+12、24+33）

[アレルヤ唱] 神よ、あなたが造られたものは数えきれない。英知によって形づくられたものは地に満ちている。（詩編 104・24）

または
神よ、あなたこそ王。あなたは万物を支配しておられる。（歴代誌上 29・

11d+12b)

※いずれも年間アレルヤ唱奇数週用（『典礼聖歌』268）または偶数週用（同 271）の旋律を使います。下線部で音が変わります。

[福音朗読]

マタイ 6・24-34 明日のことまで思い悩むな

〔そのとき、イエスは弟子たちに言われた。〕「だれも、二人の主人に……

または

マタイ 8・23-27 イエスが起き上がって風と湖とをお叱りになると、すっかり風になった

〔そのとき、〕イエスが舟に乗り込まれると、弟子たちも従った。〔すると、〕湖に……

説教

朗読された聖書の箇所のほか、このミサで用いる公式祈願（集会祈願・奉納祈願・拝領祈願）や奉献文や叙唱などを参考に、神による創造のわざの神秘や主日に含まれる「創造と復活の日」という二重の象徴性（教皇ヨハネ・パウロ二世使徒的書簡『主の日——日曜日の重要性』12-38 頁参照）などに言及するようお勧めします。また、創造を、神の創造のわざそのものとして捉えることと、神の創造のわざの結果である被造界として捉えることとを区別しておくことも大切な視点です。

さらに、創造のわざと聖体のかかわりについて言及する以下のようなことばも、説教を準備する際の参考になるでしょう。

エウカリスチアは、十字架上でキリストによって成就された救いの秘跡ですが、また、創造のわざに感謝してささげる賛美のいけにえでもあります。このエウカリスチアのいけにえにおいて、神に愛されている全被造物がキリストの死と復活を通して御父にささげられます。教会は、神が被造界と人類とのうちになされたすべてのよいこと、美しいこと、正しいことに感謝するために、キリストを通して賛美のいけにえをささげることができます。（『カトリック教会のカテキズム』1359）

わたしはすぐに自分が感謝の祭儀を行うことができたさまざまな時と場所を思い起こします。……山道のほとりや、湖の岸边、また海辺に建てられた小聖堂でミサをささげることもありました。……これらさまざまな場所で感謝の祭儀を行うことによって、わたしは聖体が普遍的なもので

あること、さらにいえば宇宙的なものであることを経験しました。そうです、たしかにそれは宇宙的で、なぜなら、たとえ田舎のささやかな祭壇で行われていたとしても、感謝の祭儀はつねにある意味で「世界という祭壇の上で」行われているからです。聖体は天と地を一つにします。聖体は全被造物を包み、それらにあまねく及びます。神の御子はすべての被造物を回復するために人となり、全被造物を無から造られたかたに、一なる最高の賛美をささげたのです。永遠の大祭司である御子は、十字架の血を流して永遠の聖所に入ることにより、造り主である御父へと、あがなわれたすべての被造物をお返しになりました。こうして御子は教会の司祭の奉仕を通して、聖なる三位に栄光を帰されます。じつにこれこそ、聖体において実現された信仰の神秘にほかなりません。造り主である神のみ手から出た世界は、今やキリス

トにあがなわれて、再び御父のもとへと戻るのです。(教皇ヨハネ・パウロ2世回勅『教会にいのちを与える聖体』8)

大地が実りをもたらすのは、わたしたちの功績ではありません。大地に豊かな実りを与えることができるのは、創造主ただお一人です。さらに、教会のこの「パンを供える」祈りを少し広げて考えるなら、パンは大地の恵みであるとともに、天からの恵みでもあるといえるでしょう。パンは、大地の諸力と、太陽と雨という天の贈り物との協働を必要としています。また、パンを作るために

必要な水も、わたしたちの手で生み出すことはできません。……このようにしてわたしたちは、主がなぜこの一片のパンをご自身のしるしとして選ばれたのかを理解し始めます。被造界は、そのすべての恵みとともに、自らを超えたさらに大きなものを希求しています。自らの諸力の総合を超えて、また、一片のパンにほめかされている、自然の働きと「人間の」霊の働きとの総合をも超えて、被造界は、神化へ、聖なる婚宴へ、そして創造主ご自身との一致へと引き寄せられているのです。(教皇ベネディクト16世「キリストの聖体の祭日のミサ説教(2006年)」)

信仰宣言

教派を超えて用いられているニケア・コンスタンチノーブル信条がとくに勧められます。この信条では、父と子と聖霊が創造主であることが宣言されています。

「全能の父、天と地、見えるもの、見えないもの、すべてのものの造り主を。」

「すべては主によって造られました。」

「いのちの与え主である聖霊を。」

共同祈願(信者の祈り)——例文

共同祈願の意向は、通常のみサと同じように、(1)教会のため、(2)国政に携わる人々と全世界の救いのため、(3)困難に苦しむ人々のため、(4)現地の共同体のため(「ローマ・ミサ典礼書の総則」70参照)、を念頭において、できるだけそれぞれの共同体で準備することが勧められます。それが難しい場合は、以下のような例文を参考にして、その日のミサにふさわしい意向を準備することもできます。

招き 宇宙万物の造り主である神を賛美して祈りましょう。

先唱 世界に広がる教会が、教皇フランシスコの回勅『ラウダート・シ』で掲げられたインテグラル・エコロジーの精神を広めることができるよう導いてください。自然やいのちある他の被造物との調和を取り戻し、一人ひとりの尊厳が大切にされる世界を実現するための、力強いあかしとなることができるよう。

一同 造り主である神よ、わたしたちの祈りを聞き入れてください。

先唱 神によって造られたこの世界の美しさと多様性を賛美して祈ります。ともにシノダリティの歩みを続ける教会が、自然や造られたすべてのものの叫びにたえず耳を傾け、この

世界との深いつながりを意識して、福音の喜びをのべ伝える使命を果たすことができますように。

一同 造り主である神よ、わたしたちの祈りを聞き入れてください。

先唱 世界の指導者のために祈ります。いま、かけがえのない地球とそこにあるあらゆるいのちが危機に瀕しています。地球環境の保全と平和の実現のために責任ある道を選択し、貧しい人や弱い人が希望をもって生きることができる世界のために力を尽くすことができますように。

一同 造り主である神よ、わたしたちの祈りを聞き入れてください。

先唱 「被造物を大切に作る世界祈願日」(または「すべてのいのちを守るための月間」)を迎えたわたしたちが、造られたものの美しさの中にあなたの足跡を見いだすことができるよう教えてください。被造物の叫びに耳を傾け、あなたからの恵みのたまものを惜しみなく分かち合い、次の世代へと受け継ぐことができますように。

一同 造り主である神よ、わたしたちの祈りを聞き入れてください。

先唱 わたしたちの「共通の家」である地球をいただいたことに感謝して祈ります。いま、この地球ではあらゆる生態系が苦しみの叫びを上げています。わたしたちが生き方をあらため、搾取ではなくつねに他者の必要に心を向け、あなたへの賛美と感謝を忘れずに生活することができますように。

一同 造り主である神よ、わたしたちの祈りを聞き入れてください。

先唱 御子イエスは自分を捨てて従うよう呼びかけました。わたしたちに、消費主義や利己主義を克服し、被造界との調和の取れた関係をつねに保つ心をお与えください。創造のたまものをふさわしく分かち合うことを通して、限られた資源を大切に用いることができますように。

一同 造り主である神よ、わたしたちの祈りを聞き入れてください。

結び 天地の造り主である神よ、わたしたちの祈りを聞き入れてください。すべての人が被造物の尊さを認め、ともに兄弟姉妹として歩み、すべてのいのちを守るために力を注ぐことができますように。わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。

奉納

パンとぶどう酒とともに、神の創造のわざを想起させる大地の恵みや労働の実りを象徴する物(籠に入れた食べ物、庭で育てた花や植物など)を奉納することもできます。また、前述した「被造物の季節(Season of Creation)」のテーマに即した物を奉納することもできます。それ

らは、祭壇の上ではなくふさわしい他の場所に置くようにします（「ローマ・ミサ典礼書の総則」73 参照）。

また、共同体でパンを準備することもできます。その場合は、小麦粉のみから作られた種なしパンであることに留意してください（同 320 参照）。

献金を行う場合は、特定の目的を事前に伝えておくとい良いでしょう。

奉献文(エウカリスティアの祈り)と叙唱

「被造物を大切にするためのミサ」には、神による創造のわざに言及し、救いの歴史を要約して述べる第四奉献文がふさわしいでしょう。

この第四奉献文には固有の叙唱がありますが、他の奉献文を用いるときの叙唱は、「年間主日四——創造のみわざ」、「年間週日三——人間の創造と救い」、「年間週日六——創造主をたたえて」がこのミサのテーマと重なります。

主の祈りへの招き——例文

『ミサの式次第』（343 頁）に記載されている招きのことばのほかに、たとえば以下のようなことばで一同を招くこともできます。

神から託された美しい世界を守り育てる決意を新たにして、主イエスが教えてくださった祈りを唱えましょう。

または

「共通の家」であるこの世界を大切に、被造物と貧しい人々の叫びに耳を傾けることができるよう、主の祈りを唱えましょう。

または

創造主である神をたたえ、被造物との調和のうちに生きることができるよう、主の祈りを唱えましょう。

聖体拝領後

上述したように、聖体拝領の後にふさわしい沈黙を取ることが大切です。黙想の助けとするために、たとえば短い自然の映像（できれば解説や音楽がついていないもの）を見せることもできるでしょう。

本「手引き」の作成にあたっては、Laudato Si' Movement による“Mass for Creation: Suggestions on How to Celebrate”、Laudato Si' Research Institute, Oxford University による“Ideas to Celebrate Creation Day”、ならびに Laudato Si' Movement、Season of Creation、World Day of Prayer for Creation などのウェブサイトに掲載されている典礼や祈りに関する各種資料を参考にしました。

「被造物を大切にするためのミサ」の式文

入祭唱（詩編 19・2）

天は神の栄光を語り、
大空はみ手のわざを告げる。

集会祈願

父である神よ、
あなたは、すべてのものが造られる前に生まれたキリストにおいて、
万物を無から呼び出してくださいました。
わたしたちが、いのちを与えるあなたの霊に促され、
み手のわざである被造物を、愛をもって守ることができますように。
聖霊による一致のうちに、
あなたとともに神であり、世々としえに生き、治められる御子、
わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。

奉納祈願

父である神よ、
ここに供える大地の恵みと労働の実りを受け入れてください。
聖霊によって聖なるものとなるパンとぶどう酒が、
永遠のいのちの糧となるよう、
この供えもののうちに創造のみわざを完成してください。
わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。

拝領唱（詩編 98・3）

遠く地の果てまで、
すべての者が神の救いを見た。

拝領祈願

父である神よ、
わたしたちが受けた一致の秘跡によって、
あなたと兄弟姉妹との交わりが深められ、
わたしたちが、新しい天と新しい地を待ち望みながら、
造られたすべてのものと調和して生きることができますように。
わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。

（2025 年 8 月 日本カトリック司教協議会常任司教委員会認可）